



よこと館だより



Est.1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 うめ草④

～平成を回顧し次なる時代に思いを巡らす～

新しい年度は次なる時代の幕開けとなります。平成時代が 4 月 30 日で終焉し、新しい御世の始まりです。平成は 3 年のバブル崩壊で始まり、7 年阪神淡路大震災、同年のオウム地下鉄サリン事件、そして 13 年から 5 年間の新自由経済主義をベースに郵政改革の小泉政権、20 年リーマンショックと続きました。23 年東日本大震災に続く福島原発のメルトダウン、24 年には民主党政権もメルトダウン。24 年から異次元金融緩和政策と自己責任を倫理基盤とする一強多弱政党国会を背景にした第二次安倍政権が現在まで続いています。

平成の時代、あまりに酷く辛い格差社会の出現。カリスマ経営者と畏怖されたカルロス・ゴーン日産前会長は正に平成の象徴、その転落に倫理観無き強者社会の末をみる思いでした。

以前、日本社会の安定は充実した中産階級層の存在だといわれました。大金持ちはそんなに多くはない代わりに、貧困階層もそんなに多くない。そして誰でもが安心した生活を享受出来る社会、北欧のような平等性の強い社会、これは福祉の求める社会像でした。中間に真理ありとする「中庸」という社会規範のあり方かな。健全な経済成長をバックに、社会福祉、社会保障の充実で実現するという理念は真っ当でした。

しかし社会の「発展と構造的な変化」がもたらした少子高齢化と格差社会の出現、貧困と孤立が蔓延、人口減が顕著になったダウンサイジング社会の到来に脆くもその夢は潰えた感があります。

社会福祉の状況は、自立と自己責任を基盤とする契約型の福祉サービスが出現、そこから介護保険、障害者福祉、保育と政策の構造的な変化です。今はイコールフットイング論に追い立てられます。社会福祉が伝統的な養護・救済から自立支援がその機能となりました。従来の「福祉」から大きく舵が切られた感じがします。結果として公的な支援より「地域」・「家族」に重点が置かれる伝統回帰です。20 年前、介護保険創設時に「家族は愛を、介護は専門家に」と云われた事を懐かしく思い出します。児童福祉の「社会的養護」も正しい方向ではありますが、地域も家族も昔通りではないのが現実です。現場の悩みは深い。

至誠学舎立川は今、新しい福祉実践分野として^{しょうがい}障害者福祉サービスの充実に取り組もうとしています。法人の総合力と機能を十分生かした活動です。これからも社会は変化しても法人の明日の姿をしっかりと見据え、皆で新しい時代に進んでいきましょう。

理事長 橋本正明

事業本部長メッセージ

∞採用内定式∞

児童事業本部では、昨年度から採用内定式を行うようになりました。新任研修までの期間に少しでも見通しや準備の計画を立て、4 月から社会人として始まる生活に安心感を持ってもらいたいという思いからです。今年は、1 月 26 日(土)14:00～16:00 の予定で行いました。京都、奈良、新潟など遠方の方も含め新卒内定者 11 名全員が参加しました。



内容は、本部長の挨拶、名誉学園長からの励ましの言葉、続いて幹部職員の入職の動機やエピソードを交えた自己紹介、そして、内定者の自己紹介、コミュニケーションゲーム、グループに分かれてお茶とケーキで懇談等です。最後に事務連絡と職員宿舎の見学・説明をして予定どおり終了しました。新人を迎える私たちにとっても楽しい和やかな会でした。

児童事業本部長 高橋久雄

事業本部情報

♥児童事業本部♥

大地の家の子どもの権利擁護委員会が今年度読書会を行っており、先日初めて参加しました。全国児童養護施設協議会が発行している「この子を受けとめて、育てために～育てる・育ちあういとなみ～」というポケットに入るくらいのブックレットを、順々に読んで思いを語り合いました。

6人の会でしたが、本を読んだあと、関連する日々の生活の、子どもとのかけがえのない大切な一場面を参加者で共有しました。ゆったりとした温かい気持ちの中、一人ひとりの「子どもに寄り添う」ことへの想いを聴かせていただく貴重な時間でした。このような仲間との喜びや福祉のこころを共有する機会は、子どもの養育に向かう上で、大切なことだと思っています。

(至誠大地の家 施設長 高橋誠一郎)

♥保育事業本部♥

園児が大きくなったら何になりたいか夢を聞いていますが、ある時、「先生の夢は何？」と聞かれて言葉に詰まった事がありました。「こんなに大人になって、夢って…」と思いましたが、その時のことがずっと心に残り、大学に行きたかった事を思い出しました。

ある年にいよいよ頑張ってみようと、通信教育で学生と仕事の両立が始まりました。学びの喜びと思うように進まない苦しみと両方の気持ちが行きつ戻りつしながら続けてきましたが、残すところ数単位という時には、ほっとするだけでなく学生生活が終わりつつあることに何となく寂しさを感じていました。

苦手な科目を最後に残したのでそう簡単に終われないことに冷や汗をかきましたが、やっと来月卒業を迎えます。今ならできるかもという根拠のない自信をもてたのは、冒険へと背中を押してくれた園児の一言でした。

(至誠第二保育園 園長 三浦修子)

♥高齢事業本部至誠ホーム♥

アウリンコビュー（屋上）では、日本一の山「富士山」が望めます。今の時期は雪を被ってとても綺麗です。北風は冷たいのですが、利用者・ご家族の睦まじいお姿を時々拝見します。皆さんも是非、足を運んでみてください。望む側までが凜とした気分になります。

また、7階には職員さん達のロッカー室、食事や休憩をするラウンジ、その隣には、研修室・会議室があり、会議や自主研修会、見学対応などで使用しています。その他、重要な用途として利用者の「不在者投票所」としての使命があります。選挙権はとても重要な権利ですので、選挙の度に利用者個々の投票意思を確認しつつ準備をして、投票をしてもらうことが可能となっています。高齢施設の大きな特徴と言えるのではないかと思います。

さて、アウリンコの最近のトピックを二つ挙げてみます。

一つ目は、昨年4月からアルバイトをしているベトナム人留学生の3名が、東京 YMCA 医療福祉専門学校・介護福祉科に合格しました。4月から、介護福祉士を目指して頑張ることになります。応援してあげてください！

二つ目は、学園の卒園生で至誠和光ホームに入居された元気なお年寄り男性 K さんが、お仕事がしたいという意思をお持ちであったことから、アウリンコで清掃業務などを中心に週4日のペースで働いて頂いています。お願いしたところはピカピカです！

いろいろ大変なこと、厳しいことの多い中でも嬉しいことはちゃんとありました！！

(至誠ホーム アウリンコ 園長 よしがみ 恵子)

本部事務局だより

「LIXIL(リクシル)日本脱出」、年明け早々に物騒なニュースである。リクシルは、トステム、INAX、東洋エクステリア、新日軽、サンウエーブ工業の5社が統合して誕生したコングロマリット(複合)企業で、日本最大の建材・住宅設備メーカーであり、売り上げ1兆円に達する巨大企業である。

以前から、日本の高度人材エリートや大金持ちは日本を捨てて海外に脱出しているとの話はあったが(リクシルの社長もシンガポールに生活の拠点を移している)儲かっている会社が何故日本を脱出するのか?世間では税金の問題とか、制度・規制が厳しいとか言われているが、リクシルの日本脱出とは具体的にどういうことか?それは、オフィスも工場も日本に残り日本を主要なマーケットとして販売することに変わりはないが、本社をシンガポールへ移すのはもちろん、東京証券取引所から撤退しシンガポール証券取引所に上場することである。理由は、同社の株価が市場から評価されていない(コングロマリットディスカウント)からだと言う。

これは、昨年末上場したソフトバンクにもみられるが、単体としては評価できるが、多様な業態が複合する企業はリスクが見えにくい為、株価が上がりにくいのだという。日本の投資家・アナリストの能力不足もあるかもしれないが、外国から見て日本で活躍できる、日本に税金を払ってでも本社を移したい、という国にならなければ、明るい未来は描けないように思う。

(法人事務局 局長 野島忠幸)

<編集後>今年の節分2月3日は日曜日。立川のお諏訪様の節分祭(豆まき)も大いに賑わうことでしょう。五円玉の入った開運福銭を手に入れるため、今年は久しぶりに家族で参ってみようかと思っています。(お)